

いよいよ出発です。良い修学旅行に

来週4日から、いよいよ修学旅行に出発します。私が一番に望むことは、全員が病気やけがをすることなく、無事に帰って来られることです。そして、この修学旅行という機会を通して、一人ひとりに成長が見られることを願っています。

10月27日の授業公開で、各班のパワーポイントの発表を見させていただきました。それぞれの班の発表は工夫がなされ、皆さんが旅行を楽しみにしている気持ちが強く伝わってきました。そして、修学旅行委員が作成した「レッズ美ら沖縄新聞」も、あらゆる面から見た沖縄の情報を提供してくれました。沖縄の基地問題について深く考え、理解を深めたディベート、「がちゅん」の當銘さんによる沖縄に住む人々の生の声…たくさんの沖縄に関する知識を事前に身につけたところで、いよいよ実際に沖縄に行く訳です。現地ではしか味わえない沖縄の全てを、体全体で感じ取ってほしいと思います。

ここで、沖縄に伝わる有名な歌「ていんさぐの花」について紹介したいと思います。「ていんさぐ」とは「ハウセンカ」のことを指します。沖縄では古くからハウセンカの汁を爪に塗って染めると、悪霊除けの効果があると信じられてきました。この「ていんさぐの花」は1番から10番まであり、親や年長者の教えに従うことの重要性を説く教訓歌となっています。その一部の歌詞の意味を紹介したいと思います。

- 一、ハウセンカの花は 爪先に染めて 親の教えは 心に染み渡る
- 二、天上に群れる星は 数えれば数え切れても 親の教えは 数え切れないものだ
- 三、夜の海を往く船は 北極星を目当て（目印）にする 私を生んだ親は 私の目当て（手本）だ



この歌の歌詞から、沖縄の人々の周囲を大切にする心が感じられると思います。皆さんも、この修学旅行に出かけるにあたり、まずは親御さんに対して感謝の気持ちを持ってほしいと思います。そして、一緒に出かける仲間にも感謝し、仲間との絆を深める機会としてほしいと願っています。

2年次主任 小林 健

修学旅行が終われば…

一年後の受験に向けて「自己を深める」時期に入ります。これまでの学習をよりステップアップさせ、受験を意識した学習に切り替えていかなければなりません。受験は自分自身との勝負であり、自分自身を高めるチャンスでもあります。仲間と共に受験に向けて意識を高めていきましょう。

12月15日（金）には文系、理系に分かれて大学の先生をお招きし、実際に行われている大学での授業を体験する機会を設けました。この機会が皆さんにとって、大学で学ぶことへの意欲向上につながればと感じます。そして今、受験の真っ只中にいる先輩方の背中を見ながら、今できることに全力で取り組み、自分自身を高めていきましょう。

保護者のみなさまへ

修学旅行に向けて・・・

11月17日の年次集会で、修学旅行の詳細を記した「修学旅行のしおり」を配付し、事前指導を行いました。ご家庭でも熟読の上、準備を進めていただきたいと思います。また、3回にわけて配付しました「修学旅行のお知らせ」も再度お読みいただき、持ち物等の準備、当日の送迎などについてご確認ください。なお、修学旅行中の生徒の様子は、西高のホームページにアップします。有意義な旅となるよう、職員一同、最善を尽くしてまいります。

健康管理について・・・

例年、12月に入りますと、風邪で欠席をする生徒が多くなる傾向があります。学校でも手洗いやうがい、励行、マスクの着用など感染予防につとめますが、ご家庭でもサポートをお願いしたいと思います。

12月行事予定 ～2017年の締めくくりに、ふさわしい一ヶ月にしましょう～

日	曜日	A/B	予 定	日	曜日	A/B	予 定
1	金	B	健康調査開始 フードドライブキャンペーン	16	土		土曜講座
2	土		修学旅行結団式	17	日		
3	日			18	月	A	
4	月	A	修学旅行	19	火	A	
5	火	A	修学旅行	20	水	A	
6	水	A	修学旅行	21	木	A	
7	木	A	修学旅行	22	金	行	休業前集会 大掃除
8	金	A	12月2日の振替休日	23	土		天皇誕生日 音楽発表会
9	土			24	日		
10	日			25	月		冬季休業開始
11	月	B		26	火		
12	火	B	バイク免許所有者指導	27	水		
13	水	B		28	木		
14	木	B		29	金		校内完全閉鎖(～1月3日)
15	金	B	大学模擬授業	30	土		
				31	日		

～今月は4組の正副担任、お二人の寄稿を掲載します♪

「修学旅行・・・」

4組担任 今村 幸永

私の修学旅行は広島・京都・大阪であった。中学校の時も京都・奈良と同方面であり、広島は平和記念式典に参加したことがあり、正直あまり面白みが感じられない旅行だなと思っていた。しかし、事前学習を通して、知らないことだらけだな、行って見てみたいなという気持ちがしだいに強くなっていった。

大阪海遊館で見たジンベエザメの大きさに圧倒され、水族館がとても好きになったこと。(今では毎年どこかの水族館に行っています。)大阪心斎橋で友人の名字が松葉だったことから、松葉亭という店に行ってみようとなったこと。京都広隆寺の弥勒菩薩、何時間見ても飽きないと感じ、寺社巡りが好きになったこと。広島では宮島に行き、世界遺産登録されたばかりの厳島神社を見ずに宿泊だけをしたこと。(教員になってから厳島神社はリベンジを果たしました。)宮島ホテルではクラスの男子全員が一部屋の大部屋に泊まったこと。平和記念資料館を見て心を痛めたこと。どれをとっても良い思い出になりました。でも一番の思い出では、いろいろな友人との会話と、それまであまり話したことのない人との会話だったと思います。トランプをしたり、クイズを出しあったりして、今までほとんど話したことがない人と話すことができた時の喜びやうれしさは今でもよく覚えています。普段と違う状況だからこそのできたのだと思います。

今は音楽を聞いたり、スマホでゲームなどをしたりして、一人の世界に入ることがいつでもできます。いつでもできることではなく、今このときしかできないこと(会話を楽しむ)をやってもらいたい。そんな修学旅行にしてもらえればと思います。

「“旅行”に思うこと」

4組副担任 北村 春菜

いよいよもうすぐ修学旅行ということで、私も自身の高校時代を思い返してみました。私の母校では、修学旅行は研修旅行と呼ばれ、高校1年生の3月に実施されます。生徒たちは北海道・沖縄・シンガポールの3つの地に分かれ、それぞれの地で特色に合わせた体験を通し、研修を積むプログラムでした。私は多民族国家のシンガポールを選択し、現地の大学生と交流し海外の文化を学び、日本とは異なる熱帯という環境での動物や植物の生態を知りました。思い返すと、修学旅行で同級生にお土産を買うという少し不思議な体験だったり、旅行中にスーツケースが開かなくなったり、同室の友人からのろけ話を3時間程聞かせられたり、案内をしてくれた現地の方と仲良くなったり……と沢山の思い出が浮かび上がります。

しかし、そんな中で最も強い記憶は旅行の最終日とその事後のことです。その日は2011年3月11日。皆さんも覚えていることだと思います。東日本大震災。帰宅直後に地震を感じ、ちょうど一緒にいた姉兄と共に、その夜はニュースを見ながら手が震えてしまったことは今でも忘れられません。その前後の日記を読み返してみると、今の自分がいかに恵まれているか、また、できることはないかと悩む文がありました。

旅行に行くにあたり、いや、日々生活するにあたり、この何気なく過ごす毎日の尊さについて改めて考えたいものです。さて、修学旅行はもう目の前です。より思い出になる・学びになる旅にしたいですね。